

令和5年度小諸市総合教育会議議事録（概要）

日時：令和6年2月7日（水）午後4時00分から午後5時30分

場所：小諸市役所4階 第1、第2委員会室

出席者：市長 小泉 俊博

教育長 山下 千鶴子

教育長職務代理者 矢嶋 真

教育委員 柳澤 由美子

教育委員 田中 隆之

教育委員 小山 真紀

進行：総務部長

事務局：教育次長、学校教育課長、子ども育成課長、文化財・生涯学習課長、スポーツ課長、人権同和教育課長、企画課長、教育総務係長、企画調整係長、企画調整係員

議事内容

1 開会（山浦企画課長）

2 あいさつ

（小泉市長）

皆さんこんにちは、市長の小泉でございます。平素は、小諸市の教育行政の推進に多大なご尽力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。また、本日は、小諸市総合教育会議を開催しましたところ、ご多用の中、ご出席をいただき誠にありがとうございます。この総合教育会議については、この場で結論を出すというよりも、率直に意見を出し合う中で、市と教育委員会が、相互の役割・権限を尊重しつつ、本市の教育の将来像や課題を共有し、効果的に教育行政を推進するために設置されているものです。本日は、学校再編を見据えた「これからの教育のあり方」について、ICTの推進による効果と課題、そして、人口の自然増への挑戦として、今後の子育て・教育施策について、となっておりますが、まず小諸市の人口の増減についてお話をさせていただきます。長野県から1月31日に発出された昨年1年間の人口動態、要するに人の流れや増減に関する調査結果では、県内19市は全て人口減となっておりますが、小諸市は人口の減少率・減少数が最も低く、県内19市の内では一番良い結果でした。小諸市の2023年の社会増減数は289人であり、2021年の16人、2022年の167人からさらに増

える結果となりました。社会増減が良かった市町村としては、松本市が 501 人、御代田町が 445 人、白馬村が 430 人、安曇野市が 407 人、これに続き小諸市は県内で 5 番目であり、佐久市や軽井沢町より良い結果でした。人口動態を見るには、小諸市は選ばれるまちになりつつあり、成果を出してきているように思います。しかし、出生数については、昨年より 60 人程度減っており、私が市長に就任した 8 年前と比べると 100 人程度減っています。国全体でも、統計を取り始めてから初めて出生数が 80 万人を下回ったことは大きな話題となっています。昨年から自然増への挑戦という言葉を使わせていただいておりますが、子どもを持つかどうか、結婚をするかどうか、色々な考え方があり、個人の自由であるご時世ですから、自然増を達成することは簡単なことではありません。本日はこういったことを踏まえて議論をさせていただければと思い、ご説明しました。皆様には、忌憚のない、積極的なご発言をお願いしまして、開会にあたってのあいさつとさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

3 会議事項（進行：柳澤総務部長）

（1）学校再編を見据えた「これからの教育のあり方」について

① ICT 教育の推進による効果と課題

（柳澤総務部長）

本日の会議は、本市の教育に関わる事項について、教育長並びに教育委員の皆様と市長が意見交換することで、教育委員会と市が同じ課題の解決に向けて同じ方向に進み、政策に対して最大限の成果を上げていくことを目的としています。本日のテーマである「学校再編を見据えたこれからの教育のあり方」ですが、これを踏まえまして、最初の項目の「ICTの推進による効果と課題」について教育委員会並びに教育現場が取り組んでいる ICT の推進について、教育次長の安藤からご説明いたします。

（安藤教育次長）

これまでの取組状況についてご報告いたします。まず、令和 2 年度に、Chromebook という端末を小・中学校の児童・生徒に 1 人 1 台整備いたしました。コロナ禍ということもあり、当初はリモート授業での活用が主な使用方法でした。教員の IT スキルの向上と活用方法の幅を広げるため、毎年、教員向けの研修会を実施していることもあり、学年を問わず様々な教科で活用が進んできている状況です。また、今年度については、児童生徒の理解度が見える化することを目的とし、ドリルソフトも整備しているところです。こういった学校現場の ICT 化の状況を踏まえ、意見交換をさせていただければと思っております。

(柳澤総務部長)

それでは、意見交換の時間に移らせていただきます。最初に小泉市長からご意見をお願いいたします。

(小泉市長)

小諸市では、市役所内の会議や業務、また議会の開催の際に、ペーパーレス化やD Xを進めています。我々の世代は紙の使用が染みついており、D Xの時代や技術に取り残されているように感じています。子どもはタブレットなどの操作についても、頭が柔らかいこともあり習得の度合いが速いですが、それに比べ我々は化石化してきているように思います。今の子ども達について、正しい使い方ができているのか少し不安に思います。これからは、大人がデジタル技術の使い方を覚え、子ども達が間違った使い方をしないようにすることが重要です。

(柳澤総務部長)

山下教育長、学校現場でI C T化が進んでいますが、どのようにお考えでしょうか。

(山下教育長)

良い部分もたくさんあります。例えば、個別最適化の学習が浸透し始めています。基本はみんな一緒に学びますが、その次の段階の学ぶ方法については、それぞれで選択できるという点は良いと思っています。英語ならば、リスニングを中心に勉強したい場合はリスニングソフト、スペルを中心に勉強したい場合は英単語のソフトを使って、自分の必要な部分を選択して勉強することができます。しかし、何でも使用すればいいと言うわけではないと思っています。

(柳澤総務部長)

次に矢嶋職務代理、ご意見をお願いします

(矢嶋職務代理)

先日、学校に見学に行った時に、I C Tの良いと思った点をお話しします。授業の中で子ども達は意見を言いたいのですが、時間の都合上、1人、2人しかその場で意見を言えません。ですが、P Cで意見を入力すると、みんなの意見を教室全体に見える形で表示できて大変便利であると思います。また、保育園のお子さんに関するレポートを読む機会があったのですが、保育士が大豆を見せると、大豆からは、お豆腐ができると4歳児が答えたそうです。何故それを知っているかと言うと、Youtubeで動画を見て、知ったとのこと。こういった部分につ

いて、ICT化を図っていく上で、学校教育で活かせる部分が多くあると思います。

(柳澤総務部長)

次に柳澤委員、ご意見を申し上げます。

(柳澤委員)

小泉市長がおっしゃった化石化という言葉がとても響きました。ICTを進める上で「紙の辞書は駄目だ」という意見などがあるためか、私は実はICT教育には抵抗がありました。図書館で頑張って調べるように教わってきた者からすると、何か失ってしまいそうな気もしていました。最近、小学生の子ども達と一緒にいることが多いのですが、子どもが庭の虫に向かってスマホをかざし、スマホが何の虫か判別してくれる機能を使いこなしていることに驚きました。そういったデジタル化をわざわざ拒否することは良くないことだと思います。ICT教育は、過去に誰も経験したことがない教育方法ですので、先生方の誰かが孤立することがないように、話し合いの場を設けながら、良い雰囲気を作っていくことが必要だと考えています。

(柳澤総務部長)

次に田中委員、ご意見を申し上げます。

(田中委員)

私も化石化という言葉に思う所があります。私は現役の子育て中であり、ここ数年のICT教育の進みを間近で見してきましたが、LINEアプリやSNSなどのプライベートなものとはICT教育は、しっかり分けなければいけないと以前は思っていました。しかし、自分のPCやタブレットの使い方ひとつとっても、使い分けることは難しいのが現実です。使い方の規制ばかり厳しくするのではなく、自由に使用することがICT教育の要ではないかと最近は感じています。大人と比べ子どもは吸収力が高く、教員で言えば若い教員の方がICTをうまく使えると思いますので、教員同士で技術を共有して、授業を行っていく必要があります。これからは、教員みなさんのスキルの統一化や向上が課題であると考えています。

(柳澤総務部長)

次に小山委員、ご意見を申し上げます。

(小山委員)

私の子ども達が小さい時には、デジタル技術はあまりありませんでしたが、最近、大学生の子どもがコロナになってからは、PCでリモート授業をしており、手続きも全てオンラインになっています。私達は機器を使うことが目標になってしまいますが、若者はツールとして利用しており、ツールである以上、先生の考え方の違いなどにより、差が出てしまっただけではないと思います。市町村・県ごとに違いは出てしまいますが、子どもは将来社会に出る時のために、必ずICTのスキルを身に付ける必要があります。昔よりも簡単に調べることができるがそのかわり一瞬で忘れてしまわないか、視力の低下に対する影響は大丈夫か、といったことが懸念されます。話は変わりますが、NHKのニュースの中で、信州大学の教授が、マインクラフトというゲームでコミュニティを作り、そこで小学生が交流をしているという話がありました。普段静かな子がゲームの世界だとリーダーシップを発揮していると保護者は語っていました。そういったことに向いている子どもは、その分野で輝き、自信が付けられるという良い効果もあると思いました。

(柳澤総務部長)

皆さんにご意見をいただきましたが、大きく分けると課題は2つであると思います。1つ目は、ICTの活用に関して、子ども達は大人が思っているより先に進んでいますが、大人がICT教育をうまく導くことができていないという点です。2つ目は、教員それぞれにスキルの差があるので、そこを埋めていかなければいけないという点です。この課題について、改善策等、ご意見はありますか。

(田中委員)

AIがICT教育の可能性を高めると思われます。現場ではまだ全然固まっていますが、AIの活用により良い効果を生む可能性があると感じています。

(小泉市長)

教育委員の皆さんは、ChatGPTを使ったことはありますか。

(小山委員)

研修会で説明を聞きましたが、使ったことはありません。

(小泉市長)

ChatGPT で作成した文章は、内容が少し足りないと思うことはありますが、基本的に文章自体はしっかりと構成されています。最近、高校生は小諸未来義塾の活動の中で、昔のような模造紙での発表ではなく、パワーポイントで発表をしたりします。私の娘についても、オンラインで論文の発表をしており、いつどこで学んだのだろうかと思います。今までは、リーダーの子だけが発表することが多かったですが、今は誰もが発表できるツールが多く、活躍の場が広がったのではないのでしょうか。ICTだけではなく、アナログが得意な人もいますが、得意分野を伸ばすことは重要であると思います。

(田中委員)

作曲コンクール表彰式で、グランプリ受賞者がアプリを使って作曲をすると聞いて、時代は変わってきていると感じました。

(山下教育長)

学校再編に向けて、どの学校、どの子ども、どの先生でも、同じベクトルを向いて、最低限の部分は統一して教育をしていくべきです。機器を使うことを目標にするのではなく、何をすることが重要だと思います。新年度にある学校では、課題を決め、Chromebook を使用して探求学習をする予定です。自分なりに資料を取り込み、足りないと思ったら仲間と話し合い、他の人の資料を見て、さらに研究を組み立てるということをします。こういった学習を進めていくためには、子ども達が調べたい、発表したいと思う課題を設定できることが大事になってくると思います。

②人口の自然増への挑戦（今後の子育て・教育施策）

(柳澤総務部長)

次のテーマである「人口の自然増への挑戦（今後の子育て・教育施策）」に入らせていただきます。小諸市では、これから第12次基本計画を策定していきますが、教育はその中でも1本目の大事な柱であります。最初に小泉市長からご発言をお願いします。

(小泉市長)

人の動きを確認すると、進学などにより女性が都市部に行くと、地元に戻ってこないことがわかっています。自然増を目指す上では、出生数を増やすことが重要ですが、昔とは違い結婚も出産も強制されることはなく、自由になってきています。今までの概念を取り払って、これから社会を作り、選ばれるまちを目指すには教育が基になっていくと考えます。例えば、軽井沢は以前から社会増の状態

が続いており、風越学園などによる教育移住が影響を与えていると思います。佐久市では、サムエル幼稚園の関連でさやか星小学校が開校予定であり、インクルーシブな教育を受けることができるようになります。佐久穂町ではイエナプランによる大日向小学校があります。孟母三遷の教えでもあるように、教育と移住は切っても切り離せないものです。小諸市は佐久穂町に次いで、2つ目の小中一貫校を目指して進めています。小中一貫校で義務教育をしっかりと行えることを示したいと思います。多様性が尊重される時代であり何が正解かわからない時代ですが、子どもにより良い教育を受けさせたいというのが親心であるはず

(柳澤総務部長)

自然増を目指すためには教育が大事であるということですが、山下教育長お願いします。

(山下教育長)

先日、新しい小学校のプロポーザルに関わっていただく建築の先生に、芦原中学校を見ていただきましたが、素晴らしい建物であるという評価をいただき、これから小学校3校を統合して、現在の学校を様々に改変させて、学びの場を作っていくことは画期的な事だと思っています。ハードだけではなくソフトが最も大事です。不登校の児童や生徒が減らないですが、そういった子でもやりたいことをできるような教育にしていきたいです。学校という器でなくてもそういった場があるのなら許してあげたいですし、例えばハローアニマルや民間企業でも良いと思います。どんなことを思ったかレポートを書いてもらうなどして、子ども達に何かをやりたいという意欲を持たせることが重要です。家庭で悶々としている子が多いですが、その子たちに小諸の地で好きなことをさせてあげることにより、後々、小諸に戻ってきたいと思えるようになってほしいです。

(柳澤総務部長)

話に挙げた学校再編に向けた教育のあり方について、他の方はご意見ありますか。

(矢嶋職務代理)

魅力を発信していくことが大事です。毎年新しい先生が小諸市に来ますが、中には小諸の給食を楽しみにしてきたという先生がおり、そういう情報がかなり広まっているのだと思いました。今後も小諸の魅力を発信していくことがとても大切です。

(柳澤委員)

親としては子どもが苦しんでいるのは一番の悩みであり、不登校が解消できるのであれば、どこにでも行くという方は多いと思います。受け皿になる場を民間と協働で作っていくのが良いのではないのでしょうか。

(田中委員)

市内8校のホームページを月1回見ますが、そのうちの1校はすごい発信力があります。情報発信はとても大事ですし、学校教育はできることを淡々としっかりやっていくことが重要です。学校再編を1つのきっかけに、みんなで知恵を出しながら進めていきたいです。

(小山委員)

自然増を目指すにあたり新校の開校までは4、5年ほど期間があるので、その前に何ができるかだと思います。女性が産みたいと思わないと子どもは増えないし、自然増に繋がらないはずです。子育てしながら働く親も増えており、安心して産める環境が大事です。山下教育長が話された、不登校の子たちが通うのは必ずしも学校じゃなくてもいいという点について賛成します。誰も取りこぼさないということであれば、悩んでいる子と保護者を受け入れられる場があれば良いと思います。将来親になる方への情報発信も大事ですし、小諸の特色や良い点をもっと発信していくことが大切です。

(山下教育長)

国や県でも学びの場を色々考えていますが、あくまで学校であることに変わりないです。そうではなく学校じゃない場が必要だと考えており、全く学校じゃない世界を作ってあげたいと思います。子どもに好きなことをやらせると、ここで働くにはどんな資格が必要かなどを考えるはずであり、そのための勉強もするようになります。教員はそういった学びの場があることを子どもに伝えなければいけません。人口増の話を受け、今の子どもも小諸に戻ってきたいという気持ちになると思います。そのためにもキャリア教育は重要だと考えます。小・中学校の内に、高校や大学などの進学先をしっかりと考えていく必要があります。

(柳澤総務部長)

皆様のご発言に対して、何かご意見があればお願いします。

(小泉市長)

子育てをすることで、キャリアロスになってしまったり、希望の職につけなかったりということ無くすることが大切です。佐久市は女性のリスキングに特化していますが、女性に限らずITスキルを学ぶことで、経済力を付けつつ、家でも仕事ができるようになります。小諸市でもITスクールを開設していますが、そういった技術を身に付けることにより、給料をしっかりと確保しつつ、在宅勤務をすることで家庭での養育もしやすくなり、保育士不足の解決にも繋がると思います。

(小山委員)

働き方を選ぶためにもスキルを身に付けることは必要だと思います。しかし、情報を自分で取りに行けない人も多くいると思いますので、支援制度を市からしっかりと情報発信していただきたいです。情報発信については、学校再編の説明会でも苦労したことはありますが、諦めずに継続して発信をお願いしたいです。

(田中委員)

子育てお母さんの働き方を変えるということには大賛成です。周りの市町村や県も巻き込んで、広域的に働き方改革をしていただきたいです。また、子育てには、母親だけではなく父親の力も必要不可欠ですので、夫婦で力を合わせていけるような環境作りを進めてほしいです。

(小泉市長)

夫が子育ての「お手伝いをする」のではなく、夫婦で協力して行うものであるという認識が一般的になってきています。昔とは時代がかなり変わってきているように感じます。

(山下教育長)

文化センターで講座を開いても、現役世代の方たちはなかなか集まらないというのが現状です。マズローの5段階欲求で言うと、高齢者の方々は自己実現欲求の域に達しているので、趣味や社会貢献をするために講座に参加される方が多いのではないかと思います。資格が取れるような講座も開きましたが、指導者を呼ぶためにお金がかかってしまいます。働くスキルを身に付けるためには、数回の短い講座ではなく、1年間を通して学ぶ必要がありますので、予算をしっかりと確保していただければと思います。

(柳澤部長)

小泉市長から最後に総括をお願いします。

(小泉市長)

今日のテーマはそれぞれが重いテーマです。ICTは子ども達の選択肢を広げ、誰1人取り残さずに才能を発揮できる可能性があると思います。例えば、N高校というITやゲームに長けた高校がありますが、そちらに長けていればその世界で1番になるチャンスがあると思います。自然増への挑戦については、様々なことが複雑に絡んでいるため、どれか1つやればいいということではありません。ウェルネスの考えを持ちつつ、多様性を尊重し、みんなの考え方を変えていくことから進める必要があります。子育ては夫婦が協働して行うべきという話も高齢者まで浸透すれば、社会が変わってくるはずですが、少子化対策と言うと、戦前のような「産めよ、育てよ」という風に捉えられかねませんが、そういうことではありません。そのためにも小諸をウェルネスシティであると感じてもらえる社会を作っていく必要があります。教育長、教育委員の皆さまには幅広い視点でこれからもご協力をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(2) その他

【その他の議題は無し】

4 閉会 (山浦企画課長)

以上